



## 投与開始基準

アムルシビン	
項目	程度
初回投与時	白血球数4000/mm <sup>3</sup> 以上12000/mm <sup>3</sup> 以下、血小板数100000/mm <sup>3</sup> 以上、ヘモグロビン値10g/dL以上
2回目以降	白血球数3000/mm <sup>3</sup> 以上、血小板数100000/mm <sup>3</sup> 以上

## 減量・中止基準

アムルシビン		
副作用	程度	対処法
白血球減少	1000/mm <sup>3</sup> 未満が4日以上持続した場合	次コースの投与量を前コースよりも5mg/m <sup>2</sup> /日減量する。
血小板減少	50000/mm <sup>3</sup> 未満の場合	次コースの投与量を前コースよりも5mg/m <sup>2</sup> /日減量する。
心筋障害	異常が認められた場合	休薬または中止すること。心機能に対する観察を十分に行うこと。他のアントラサイクリン系薬剤等心毒性を有する薬剤による前治療歴がある患者については十分注意すること。 代表的なアントラサイクリン系抗がん剤の限界量は以下の通り。 ダウノルビシン: 総投与量25mg/kg ドキソルビシン: 総投与量: 500mg/m <sup>2</sup> エピルビシン: 総投与量: 900mg/m <sup>2</sup> ビラルビシン: 総投与量: 950mg/m <sup>2</sup>

## 減量・中止基準

小細胞肺癌CE療法レジメンより。CBDCAIについて参照。
-------------------------------

### 併用療法の主な休薬・減量・中止基準

副作用	条件	カルボプラチン <sup>注1)</sup>	イトボシド <sup>注1)</sup>
血液毒性 <sup>注2)</sup>	好中球数<500/ $\mu$ Lかつ 血小板数 $\geq$ 50,000/ $\mu$ L	前回用量の75%	前回用量の75%
	好中球数<1,000/ $\mu$ Lかつ 38.5℃以上の発熱		
	血小板数<25,000/ $\mu$ L		
腎機能障害	血小板数<50,000/ $\mu$ Lかつ Grade 2以上の出血	前回用量の50%	前回用量の50%
	クレアチンクリアランス >50mL/min	規定なし	用量変更なし
クレアチンクリアランス 15-50mL/min	元の用量の75%		
下痢	Grade 3, 4 (止瀉薬使用下) 又は入院を要する場合	前回用量の75%	規定なし
悪心/嘔吐	Grade 3, 4 (制吐薬使用下)	前回用量の75%	規定なし
神経毒性	Grade 2	前回用量の75%	規定なし
	Grade 3, 4	前回用量の50% 又は中止	規定なし
トランスアミナーゼ上昇	Grade 3	前回用量の75%	規定なし
	Grade 4	中止	規定なし
他の非血液毒性	Grade 3, 4	前回用量の75%	規定なし

注1) 一度減量した場合、用量を100%に増量することはできない。2回の減量後にGrade 3又は4の毒性が発現した場合、もしくは毒性のために63日間を超えて投与を延期した場合は投与を中止すること。非血液毒性が発現した場合、ベースライン値以下(又はGrade 1以下)に回復するまで、最長63日間休薬すること。

注2) 各サイクル開始時点で好中球数が1,500/ $\mu$ L以上かつ血小板数が100,000/ $\mu$ L以上に回復するまで、最長63日間休薬すること。